



## 横浜家系ラーメンの老舗「六角家」 本店の破産

### 家系ラーメンの古参店

「横浜家系ラーメン」と聞いて、すぐに濃厚な豚骨醤油味を思い浮かべた人は、正真正銘の“ラーメン好き”でしょう。

数ある家系ラーメンのなかでも、「吉村家」「本牧家」とともに「横浜家系御三家」と呼ばれた老舗店「六角家」（横浜市神奈川区）がことし9月、ひっそりと倒産しました。

ラーメンブームの火付け役ともなった「新横浜ラーメン博物館」の開業時（1994年）に出店するなど、全国的な知名度を得ていた同社はなぜ、破綻に追い込まれたのでしょうか。

六角家の創業は、1988年にさかのぼります。横浜家系ラーメンの元祖と言われる「吉村家」で修業し、その2号店として開業した「本牧家」でさらに研鑽を積んだ代表が独立して、ラーメン店「六角家」をオープンしました。

こうした経緯もあって、横浜市発祥の「吉村家」から暖簾分けし、全国規模で店舗拡張を続ける“家系ラーメン”の最古参店舗として、ラーメン好きの間で広く知られる存在でした。

### 最盛期には全国で8店舗を展開

一時は、横浜市内を中心に、首都圏、札幌、名古屋、大阪、高松に、直営8店舗を展開。六角家から独立した店舗も多数存在するほか、2004年には店舗名を冠したカップ麺やチルド麺がコンビニエンスストアで販売されるなど、

順調に業容を拡大しているかに見えました。

しかし同社は長年、経営面一切の对外公表を控えるなど、外部からは経営内部の実情を窺い知ることはできない会社でもありました。

実際のところ、近年はラーメン業界の競争激化で新陳代謝が進み、六角橋本店の来店客数は減少していたようです。“家系ラーメン”ブームも沈静化するなかで、近隣に同じ家系ラーメンの人気店が複数出店したことも、売上減少に拍車をかける結果となりました。

2015年1月には、消費税等の滞納で財務省から代表所有不動産に抵当権の設定を受けるなど、厳しい経営環境が続きました。2017年になると、代表の体調不良も重なり、同年10月末には閉店に追い込まれ、それから3年後のことし9月4日、横浜地裁から破産開始決定が下りました。なお、「六角家」を屋号とした他の店舗は、今回の破産措置とは無関係であり、現在もお営業を続けています。

### 多店舗展開している飲食業が苦境に

足下のコロナ禍で多くの飲食店が苦境に立たされていますが、六角家のように多店舗展開していた業者がとくに苦しんでいる印象です。業況が好調なときほど、強気の出店計画を立てがちですが、やはり、そういうときほど一度立ち止まって再考することが大切でしょう。昔から「好事魔多し」と言いますが、より慎重な経営判断が求められるのかもしれません。 